本資料及び資料に含まれる第三者著作物を再使用する場合、
利用者は、それぞれの著作権者より使用許諾を得なくてはなりません。

思索と言語

Handout 02　言葉を科学する：人間の再発見

奥　聡

Day 02

1.　Pre-class Work 02

(A)

(B)

(C)

＊先週の Post Class Work でたくさんの「不思議に思っていること」があつまりました。残念ながら、それらのほんの一部しかこの授業では話題になりませんが、以下簡単に feedback

- 方言差はどの言語にもあります。英語にもたくさんあります
- 文字（読み書きの能力）については、とても興味深い問題ですが、ここでは扱いません
- 日本語は難しい言語である。あるいは英語は難しい（or やさしい）言語である、ということを客観的に科学的に示す証拠や基準はありません。どの言語もその環境で育つ子どもは何の問題もなく同じように習得します。その意味では、言語の難易度の差はありません。（体系の異なる言語を大人になってから学ぼうとすれば、難しく感じるでしょう。）

2.　科学する心

(1)　本統の科学というものは、自然に対する純真な驚異の念から出発すべきものである。不思議を解決するばかりが科学ではなく、平凡な世界のなかに不思議を感じることも科学の重要な要素であろう。　中谷宇吉郎『簪を挿した蛇』(1946)

(2)　単純なことに驚くことができるようになるというのは大切なことです。例えば、物体は上に上がらず下に落ちること、その落下速度はある一定の割合をなすこと、…、といったことです。科学は、日常生活の最も単純な現象が極めて重大な問題を呈示していることに気づくことから始まります。Noam Chomsky (1988) *Language and Problems of Knowledge* (1988) MIT Press.

(3)　素朴理論と科学理論

自分の「素朴理論」とあわない「考え方・理論」に出会ったとき

(4)　みんなが出してくれた言語に関する疑問点・不思議に思う点

a.　本当に事実か、確認が必要

b.　事実だとして、客観的・科学的「説明」が可能か

(5)　自分の母語に関する「素朴理論」（こうゆうものだと信じてきたこと）は、それを一旦取り除くのはとても難しい場合もある

「客観的に見る必要がある」「常識を疑うことが大切」というが、それは時としてとても難しい

(6)　**Class Work**

「言語はコミュニケーション（人間同士の意思情報の伝達）のために発達した機能である」

a.　この命題が本当に成り立つためには、どのようなことを客観的に示せばよいか。

b.　この命題が必ずしも成り立たないことを示すには、どのような事実があればよいか。

３．言語能力と言語運用

(7)　a.　研究対象は頭の中の言語知識・言語能力

b.　実際のデータは出てきた言語現象（実験・観察）

(8)　データに含まれる「ノイズ」を取り除く必要あり

(9)　物体の運動

a.　本質：「重力」「慣性」など

b.　ノイズ：摩擦、空気抵抗など

(10)　a.　言語能力（competence）：頭の中の潜在能力（外的要因に左右されず）

b.　言語運用（performance）：実際の言語使用（基本的には(10a)の表れだが、外的要因にも左右される）

(11)　足し算の知識

a.　1 + 1 = 2　○

b.　1 + 1 = 4　×

c.　1234 + 9876 = 11110　△

(12)　a.　太郎が花子が来たと思っている　○

b.　次郎が太郎が花子が来たと思っていると言った　△

c.　太郎だけが来た　○

d.　太郎しか来た　×

＊データにおけるどの部分が本質でどの部分が「ノイズ」かは、「先験的には」分からない。仮設や理論によっても変わりうる。研究者のセンスが問われる（運も）。

４．ソシュール、サピア・ウォーフ仮説、そして言語生得論

(13)　単語は音と意味の「恣意的な arbitrary」結びつき
（フェルディナンド・ソシュール Ferdinand de Saussure）

(14)　Martin Joes「諸言語は、際限なく、また予測不可能な形で、相互に異なり得る」
（"languages could differ from each other without limit and in unpredictable ways”）(Chomsky 1986. *Knowledge of Language: Its Nature, Origin, and Use* (福井直樹訳))

(15)　サピア・ウォーフの仮説（Sapir-Whorf Hypothesis）
(言語相対性仮説・言語的相対論)
言語が話し手の思考を大幅に規定する
ウォーフ, B.L. (池上嘉彦訳) 1993『言語・思考・現実』（講談社）
サピア, E. ウォーフ, B.L.(池上嘉彦訳) 1995『文化人類学と言語学』(弘文堂)

(16)　Chomsky: 言語生得論
言語獲得の論理的問題が示していることは「人間が獲得し得る言語はすべて同質のものである」ということだ。

(17)　言語獲得の論理的問題（the logical problem of language acquisition）
子供は、生まれて４～５年のうちに、民族や人種に一切関係なく、生育する環境で話されている言語の知識を、明示的な説明なしに獲得してしまう。子供の言語に関する経験は極めて限られたものであるのに、なぜ、このような言語知識の獲得が可能なのであろうか。

(18)　言語に難しい・やさしいはない

(19)　言語（方言）間に優劣はない

- 人間の頭の中の言語能力

生まれつきの資質によるものは何か？
生後、身につく部分はなにか？　　理論言語学の最重要テーマ

５．人称代名詞と日本語：事例研究

(20)　英語の一人称主格は「I」一つなのに、なぜ日本語には「私」「僕」「俺」など複数の言い方があるのか？

(21)　「わたし」「あなた」「彼・彼女」名詞説
日本語のこれらの表現は、英語や他の西洋言語でいうところの「人称代名詞」ではない

(22)　日本語には「人称代名詞」がたくさんある、という命題は成り立たなくなる。
＝＞　この点で英語と日本語の違いはなくなる

(23)　日本語の人称代名詞はゼロ代名詞
イタリア語・スペイン語・韓国語・中国語

(24)　では、「私」「俺」「あなた」「お前」「彼」「あいつ」などは何か？

(25)　普通名詞

(26)　話者と聞き手（その他の状況）との関係やそれぞれの特性を明示する言語表現はどの言語にもたくさんある。(それが名詞を使うことによって行われる例)

a.　Your <u>father</u> will be with you.　(父親が子供に言う)

b.　Sit down, you <u>bastard</u>!

(cf. Would you take a seat please?)

c.　We <u>linguists</u> do not trust you <u>logicians</u>.

(27)　客観的な論拠はあるか？

(28)　仮説からの予測（一般的)

「私」「あなた」「彼」などは、英語の人称代名詞とは異なる文法的ふるまいをし、普通名詞と同じ文法的ふるまいをする。

(29)　具体的にどのような検証（実験）をすればよいかは研究者の腕のみせどころ

(30)　人称代名詞は「制限的修飾」を受けることができない。普通名詞はできる

a.　busy father vs. *busy I / *busy me / *busy he / *busy him

b.　a girl with a hat vs. *she with a hat / *her with a hat

c.　the boy last week vs. *him last week

(31)　仮説からの予測（具体的）

日本語の「わたし」「あなた」「彼」は、「制限修飾」を受けることができる

(32)　実験

a.　忙しい私、忙しいあなた、忙しい彼

b.　帽子をかぶった彼女

c.　先週のあなた

(33)　実験結果が予測通りである限りにおいて、仮説の確からしさが増す(証明ではない)

(34)　「人称を表す表現が多いのは、日本語は相手との関係を重視する言語だから」という「説明」（この説明自体は正しいかもしれないが、それを客観的に示すことは簡単ではない）で満足してしまっては、「わたし」「あなた」などが普通名詞（的特著を持つ）であることに気がつかないかもしれない。日本語の特徴を捕まえ損なう。

(35)　さらにこの仮説の興味深い点

人称代名詞のふるまいに関して、日本語と英語が違うという必要はなくなる

唯一の違いは、ゼロ代名詞を許す言語か許さない言語かという、文法上違い 1 点に集約される。()

＊来週は都合により pre-class work を行いません。すぐに講義を始めます。今日の講義内容の復習は各自しておいて。(授業運営を効率的に行うために、来週から座席を指定します)